



きた かわ のり お 北川法夫議員が 都市住宅常任委員会で質問

北川法夫議員(寝屋川市選出)は、10月17日に開かれた都市住宅常任委員会で、平成40年度が完成目標である京阪本線(寝屋川市・枚方市)の連続立体交差事業への取り組み状況、寝屋川市の密集市街地対策などについて、質問しました。



〈北川 法夫 きたかわ のりお〉

昭和23年9月10日生まれ。関西大学商学部、同経済学部卒。北川石松衆議院議員秘書、自民党寝屋川支部長。現在7期目。この間、府議団幹事長、政調会長、第102代大阪府議会議長を歴任。現在、府議会都市住宅常任委員。
<http://www.kitakawa.org/>

京阪本線(寝屋川市・枚方市)連続立体交差事業(*)の 事業認可取得後の取り組みについて

(※連続立体交差事業…「開かずの踏切」による交通渋滞や踏切事故を解消すると共に鉄道により分断されていた町を一つに繋ぎ、住みよい町を次世代に残す事業。)

開かずの 踏切解消へ!

京阪本線の寝屋川市駅周辺は既に高架化されているが、香里園駅周辺から枚方公園駅周辺までを含めると「開かずの踏切」(1時間あたり40分以上閉まっている)が20カ所連続する区間がある。これらを一挙に除却する連続立体交差事業は、住民の利便性も含め、非常に効果が高い。地元市もこの事業と一体となって事業効果が得られるよう、駅前広場の整備や高架下の有効利用など、機能的で魅力的なまちづくりの実現を図るべく強い意気込みで取り組んでいる。府の取り組みの現状はどうか、質問した。

いよいよ動き出した京阪本線・ 連続立体交差事業、 現在の取り組み状況は?

Q. 北川議員

昨年5月の府議会(一般質問)で、連続立体交差事業の取組状況について伺ったところ「事業認可取得を目指し、協議を進めている」との答弁を得、私も地元選出の議員の一人として早期の事業認可の取得に向け、自ら国土交通大臣に面会し要望を行った。12月(昨年)には、無事、事業認可を取得、事業がいよいよ動き出すことになり大変喜ばしい。地元への説明も行われたと聞か、京阪本線(寝屋川市・枚方市)連続立体交差事業の現在の取り組み状況について伺う。

A. 都市交通課長

本事業は、京阪本線・香里園駅周辺から枚方公園駅周辺まで延長約5.5kmを連続立体交差化し、香里園駅、光善寺駅、枚方公園駅の3駅も合わせて高架化するとともに、21カ所の踏切を除却するもの。大阪府と寝屋川市、枚方市、京阪電気鉄道(株)が連携しながら進めており、昨年12月の事業認可取得後には、地域にお住いの方などに事業計画等の説明を行った。用地買収等は地元市が行い、現在、土地の測量や建物の補償額算出の調査等が進められている。また、鉄道施設本体については府と京阪電気鉄道(株)が構造や工法に関する詳細設計を進めているところである。

長期間を要する 用地買収や工期に 対する工夫を

Q. 北川議員

事業の進捗に際し、地元説明会では用地買収について具体的な意見も出ている。今回の事業区間は5.5km(香里園駅周辺から枚方公園駅周辺まで)と長く、特に香里園駅周辺では土地建物が密集していることから多数の地権者との交渉が必要となり、長期間を要すると思う。また、連立事業は営業線を通しながら工事を進めるものであり、多大なる費用と相当長い工期が必要となる。本事業は平成40年度が完成目標となっているが、地元の早期完成に対する期待もあり、今後、どのような工夫をしながら事業を進めていくのか。

A. 都市交通課長

用地買収については多数の地権者が対象となっているため、短期間で集中的に行えるよう、地元市が行う業務のうちの「交渉」は、専門知識を有する民間業者の協力も得ながら進める。工事については京阪電気鉄道(株)とともに、連続立体交差事業としては全国に先駆け、軽量化を図る新しい工法を採用するなど、コストの縮減や工事工程の短縮に努める。様々な工夫をしながら、府、地元市、鉄道事業者が一体となって、一日も早い高架化完成に向けて取り組んでいる。

北川議員 要望

地元からの高い期待、一日でも早い完成を強く要望する

この京阪連立事業は地元からの期待が非常に高い事業であり、一日でも早い完成を目指し、事業を進めて頂くよう強く要望する。

寝屋川市の密集市街地対策について 密集地区解消へ 府市連携で 対馬江大利線の整備を進めるべき



Q. 北川議員

私の地元、寝屋川市の密集市街地の解消について、その1つである「香里地区」は京阪の連続立体交差事業が進められようとしており「萱島東地区」では老朽住宅の除却などの整備が進んでいるが、「池田・大利地区」は道路の整備状況も悪く、まちの不燃化も進んでいない。地区を東西に走る**対馬江大利線が拡幅整備されれば、不燃領域率**(※市街地の燃えにくさを表す指標)の向上や**延焼遮断効果も高くなる**。府市が連携して対馬江大利線の整備を進めるべきと考えるが、現在の取り組み状況を伺う。

A. 建築防災課長

本年7月に、府と寝屋川市の密集市街地対策や道路・都市計画関連の部局メンバーからなる対馬江大利線に関する勉強会を立ち上げたところ。整備の主体のあり方や密集市街地対策としての整備手法など、検討をしっかりと進めてまいる。

密集市街地対策の取り組み強化

Q. 北川議員

住宅まちづくり部長は各市の密集市街地の現場をまわられ、萱島東地区、池田大利地区も視察されたと聞いている。密集市街地の解消に向けた部長の考えをお聞かせいただきたい。

住宅まちづくり部長は各市の密集市街地の現場をまわられ、萱島東地区、池田大利地区も視察されたと聞いている。密集市街地の解消に向けた部長の考えをお聞かせいただきたい。

A. 住宅まちづくり部長

北川委員のこれまでの熱心な取り組みが、今年度から密集地対策への予算の倍増、新組織の設置など、府の密集市街地対策の大幅な強化につながった。寝屋川市は積極的な対策を進めていることから現地を視察し、対馬江大利線についても歩道がなく幅員の狭いことなど実情を目の当たりにした。寝屋川市とは今後とも連携を密にし、密集市街地の解消に向けた取り組みを進めていく。

寝屋川流域の治水対策

ゲリラ豪雨による内水浸水…地下河川の取り組みは？

Q. 北川議員

寝屋川流域では昭和29年の河道改修から始まり、60年にわたり治水対策を続けてきた。近年、新たな課題として、いわゆる“ゲリラ豪雨”が頻発し、降った雨の受け皿となる市の水路や公共下水道が排水能力を超え、内水浸水の被害が発生している。**下水道増補幹線や地下河川**が最終的に公共下水道などの受け皿となることから、**一体的な整備が必要不可欠である**。下水道増補幹線を含めた地下河川の、これまでの取り組み状況について伺う。

A. 河川整備課長

現在、寝屋川流域では南北2本の地下河川の整備を進めている。北部地下河川では鶴見立坑から北島立坑までの3.7kmが完成しており、下水道増補幹線10.2kmと合わせて約28万㎡の貯留が可能で約1,800haの地域の内水浸水被害を軽減。南部地下河川では聖天山立坑から若江立坑までの11.2kmが完成し、下水道増補幹線23.8kmと合わせて約96万㎡の貯留が可能で、約6,600haの地域の内水浸水被害の軽減に効果を発揮している。

完成までに30年?! 治水対策の整備スケジュール

Q. 北川議員

地下河川や増補幹線は全体が完成すれば、その治水効果は飛躍的に高まるが、地下河川として完成するまでには30年間かかるとも聞いている。地下河川の今後の整備スケジュールはどうか。

A. 河川整備課長

北部地下河川については、門真調節池の整備を平成27年出水期の供用開始を目指している。守口調節池は昨年度から工事に着手し、門真調節池と守口調節池及び関連する下水道増補幹線が平成32年頃にかけて順次完成、鶴見立坑から最下流については具体的な検討に着手した。南部地下河川は平成24年度から用地取得を進めている。

流域市と府の連携・整備協力で治水効果の発揮を

Q. 北川議員

流域市が整備する公共下水道と府が整備する地下河川や下水道増補幹線は、お互いの協力・連携ではじめて治水効果が発揮される。府市それぞれが思いをひとつにして進めるべきと考えるが、**流域市との連携**について今後どのように進めていくのか。

A. 事業課長

浸水被害を効率的かつ効果的に軽減するため、府の事業を推進するだけでなく、**流域市と連携・協力しながら整備を進めている**。流域市の雨水整備に係る交付金の確保について、国に対して要望を行うとともに、府と流域市が事業効果や事業計画等をしっかり共有し、寝屋川流域の治水対策を進めてまいる。